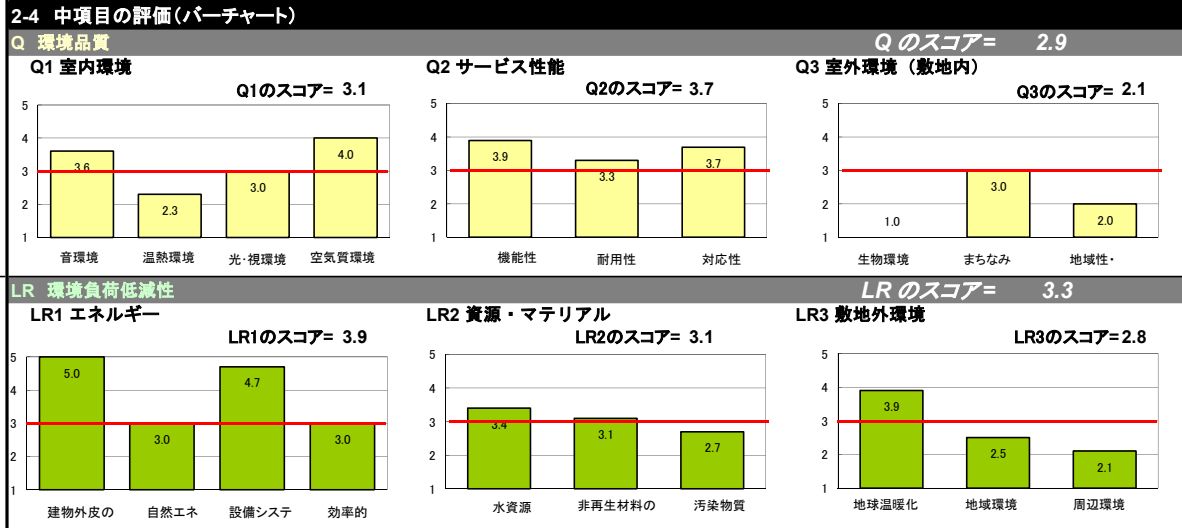
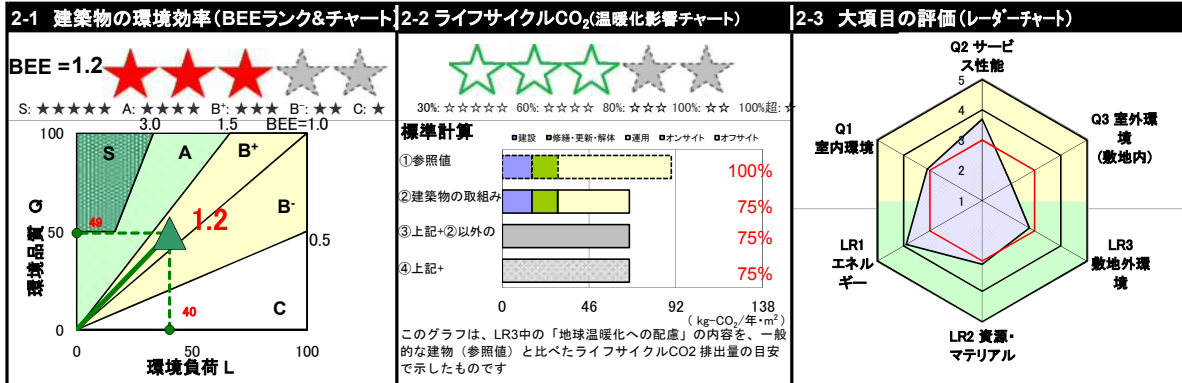


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	榎屋ヤック株式会社本社事務所棟	階数	地上3階
建設地	愛知県岡崎市日名西町3-9.3-10.3-	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年9月29日
敷地面積	1,765 m <sup>2</sup>	作成者	伊藤 千代
建築面積	1,057 m <sup>2</sup>	確認日	2017年9月29日
延床面積	3,039 m <sup>2</sup>	確認者	伊藤 拓道



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">9.7 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(廊下・宿泊) 住居・宿泊部分						
配座項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										2.9
<b>Q1 室内環境</b>										3.1
<b>1 音環境</b>										3.6
1.1	室内騒音レベル			3.6	3.0	0.15				
<b>1.2 遮音</b>										
1	開口部遮音性能	T-2		4.2	5.0	0.40				
2	界壁遮音性能			3.0	3.0	0.40				
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	3.0	0.40				
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	3.0	0.40				
<b>1.3 吸音</b>										
	吸音		吸音材を床と天井に使用している。	4.0	4.0	0.20				
<b>2 温熱環境</b>										2.3
<b>2.1 室温制御</b>										
1	室温			3.7	3.0	0.50				
2	外皮性能			3.0	3.0	0.38				
3	ゾーン別制御性		マルチユニット型ヒートポンプ方式の空調システムを使用。	5.0	5.0	0.25				
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
	空調方式			1.0	1.0	0.20				
	空調方式			1.0	1.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>										3.0
<b>3.1 昼光利用</b>										
1	昼光率			3.0	3.0	0.30				
2	方位別開口			3.0	3.0	0.60				
3	昼光利用設備			3.0	3.0	0.40				
<b>3.2 グレア対策</b>										
1	昼光制御			3.0	3.0	0.30				
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
	照明制御			3.0	3.0	0.15				
	照明制御			3.0	3.0	0.25				
<b>4 空気環境</b>										4.0
<b>4.1 発生源対策</b>										
1	化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に使用。	5.0	5.0	1.00				
<b>4.2 換気</b>										
1	換気量			3.0	3.0	0.30				
2	自然換気性能			3.0	3.0	0.33				
3	取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33				
<b>4.3 運用管理</b>										
1	CO <sub>2</sub> の監視			3.0	3.0	0.20				
2	喫煙の制御			3.0	3.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>										3.7
<b>1 機能性</b>										3.9
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1	広さ・収納性		1人あたりの執務スペースが12㎡以上である。	3.6	3.6	0.40				
2	高度情報通信設備対応			5.0	5.0	0.33				
3	バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	0.33				
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1	広さ感・景観 (天井高)		天井高3.0m以上としている。	4.3	5.0	0.30				
2	リフレッシュスペース		自販機の設置、リフレッシュスペースを確保。	5.0	5.0	0.33				
3	内装計画		建物のコンセプトを、内装計画に積極的に取り入れている。	3.0	3.0	0.33				
<b>1.3 維持管理</b>										
1	維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した取り組みを10項目行っている。	4.0	4.0	0.30				
2	維持管理用機能の確保			5.0	5.0	0.50				
	維持管理用機能の確保			3.0	3.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>										3.3
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	3.3	3.8	0.48				
2	免震・制震・制振性能			4.0	4.0	0.80				
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1	躯体材料の耐用年数			3.2	3.0	0.23				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	耐用年数21年以上30年未満	4.0	4.0	0.23				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	3.0	0.09				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	3.0	0.08				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	3.0	0.15				
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	3.0	0.23				
<b>2.4 信頼性</b>										
1	空調・換気設備			2.6	3.0	0.19				
2	給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20				
3	電気設備	②		3.0	3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法			1.0	1.0	0.20				
5	通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水被害への対策、ネットワーク機器用無停電	4.0	4.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>				3.7	0.29				3.7
<b>3.1 空間のゆとり</b>				4.2	0.31				
1 階高のゆとり				5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			3. 5m以上3. 7m未満	3.0	0.40				
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	0.31				
<b>3.3 設備の更新性</b>				4.0	0.38				
1 空調配管の更新性	②		天井スペースを確保し、仕上げ材を痛めず配管の更新、修繕ができる。	4.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			構造材のみならず仕上げ材を痛めず配線の更新、修繕ができる。	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			仕上げ材を痛めず通信配線の更新、修繕ができる。	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			仮設スペースを確保し、更新時に建物機能を維持できる。	4.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			スペースが計画的に確保されている。	4.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.34				2.1
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	独自③			1.0	0.30				1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	独自④			3.0	0.40				3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.3
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40				3.9
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.74	5.0	0.19				5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	0.23				3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI <sub>m</sub> =0.63	4.7	0.35				4.7
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.23				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30				3.1
<b>1 水資源確保</b>				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型器具を使用している。	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.1	0.63				3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	独自		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	独自	再利用できるユニット材を使用している。	4.0	0.24				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				2.7	0.22				2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68				
1 消火剤				2.0	0.33				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33				
3 冷媒				3.0	0.33				
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30				2.8
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	①		ライフサイクルCO <sub>2</sub> 換算値49%	3.9	0.33				3.9
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制	独自		駐車場の整備と自転車の利用に関する取組みを行っている。	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
<b>3 周辺環境への配慮</b>				2.1	0.33				2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音	独自			3.0	0.33				
2 振動	独自			3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40				
1 風害の抑制				1.0	0.70				
2 砂塵の抑制				3.0	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				1.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

総屋ヤック株式会社本社事務所棟・倉庫棟新築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:9.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。                      申請地周辺には、住宅や商業施設があり、人の往来も多いため、住環境に配慮し、敷地内の建物配置を計画する。                      市内全域が景観保護区域に指定されているので、都市の景観に配慮した建物を計画する。                      騒音、振動の発生を予防する。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      建築材料は☆☆☆☆を採用し、汚染物質発生防止に努めた。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      執務空間を大きく確保し、将来の変化に対応できるように、フレキシビリティの高い空間とした。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      敷地内に植栽を配置し、緑地面積を確保した。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      屋上には太陽光発電パネルを設置した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      計画において、節水型器具(児童センサー小便器、節水便器等)を採用した。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。                      来訪者が敷地外道路に駐車しないよう、敷地内に適切な数の駐車スペースを確保した。                      風通しに配慮した建物の配置とし、敷地外への熱的影響を最小限にとどめるよう計画した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>